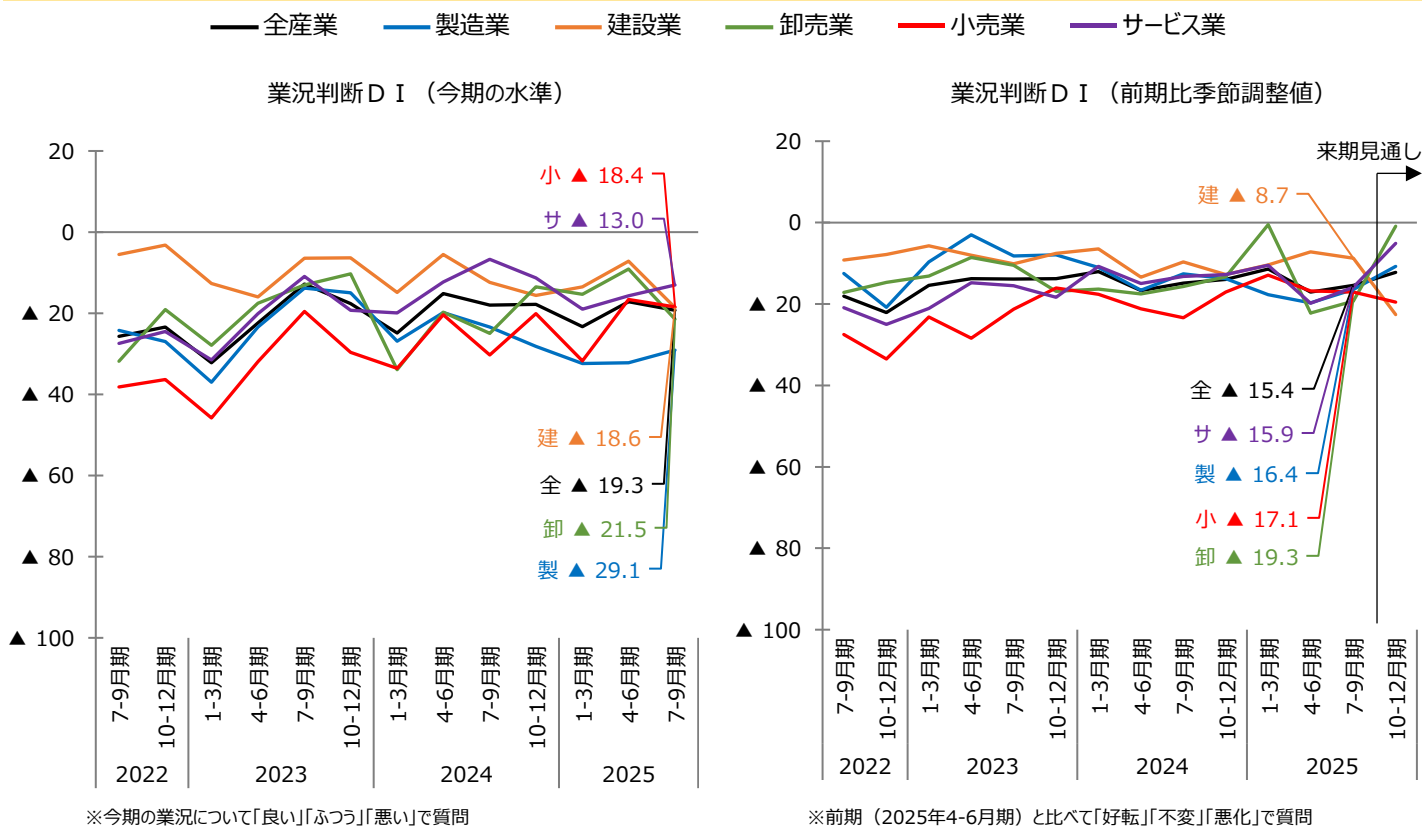


第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 北海道



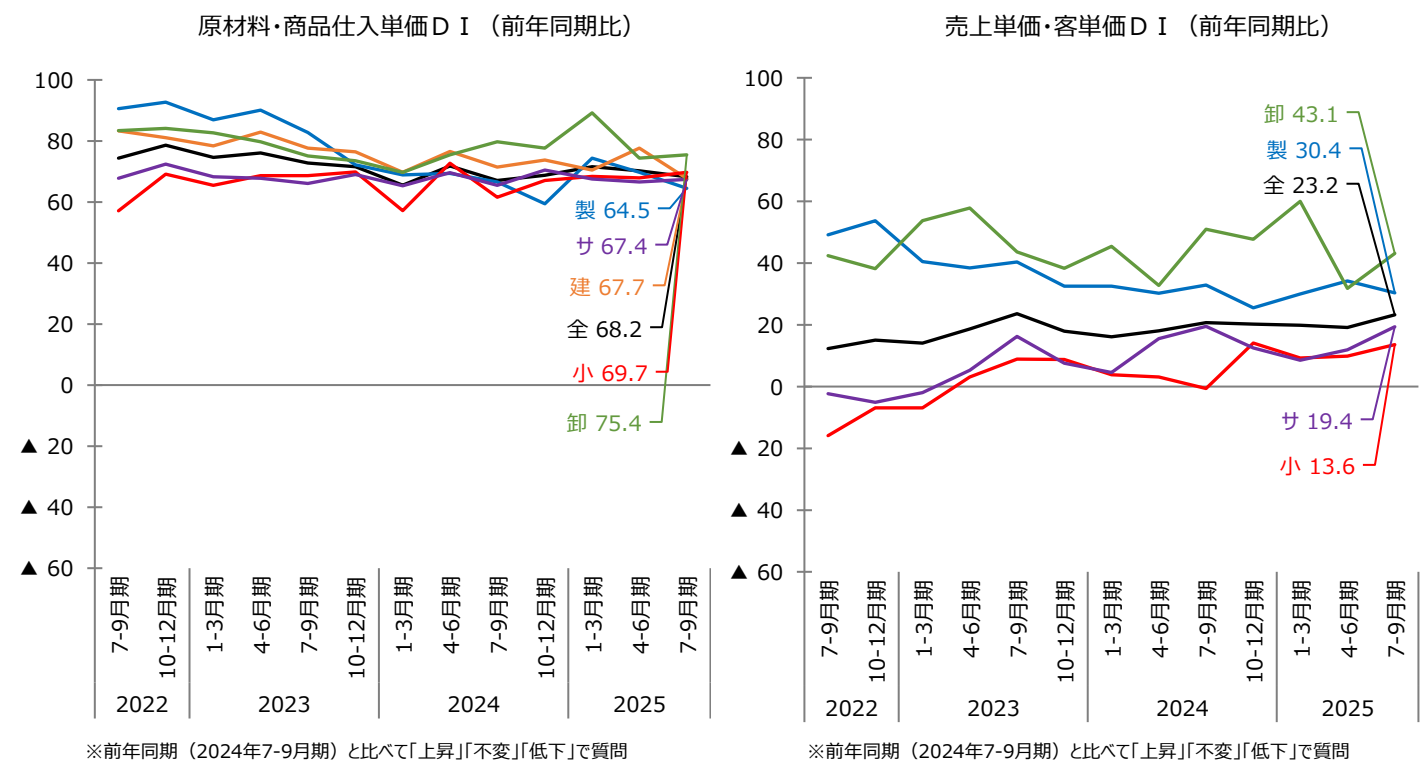
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より2.1ポイント減の▲19.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、卸売業、建設業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の68.2と2期連続して低下した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.1ポイント増の23.2と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業で上昇し、製造業で低下した。



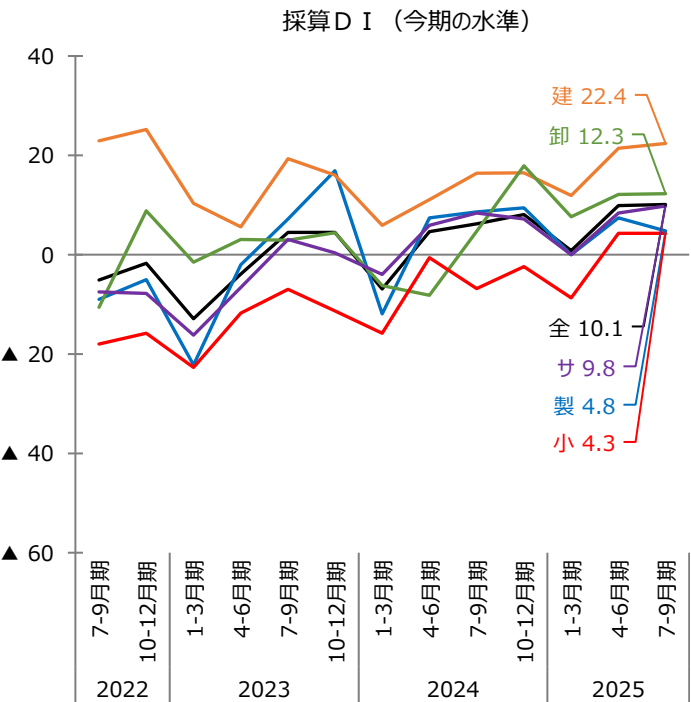
＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、北海道：722企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

3. 採算

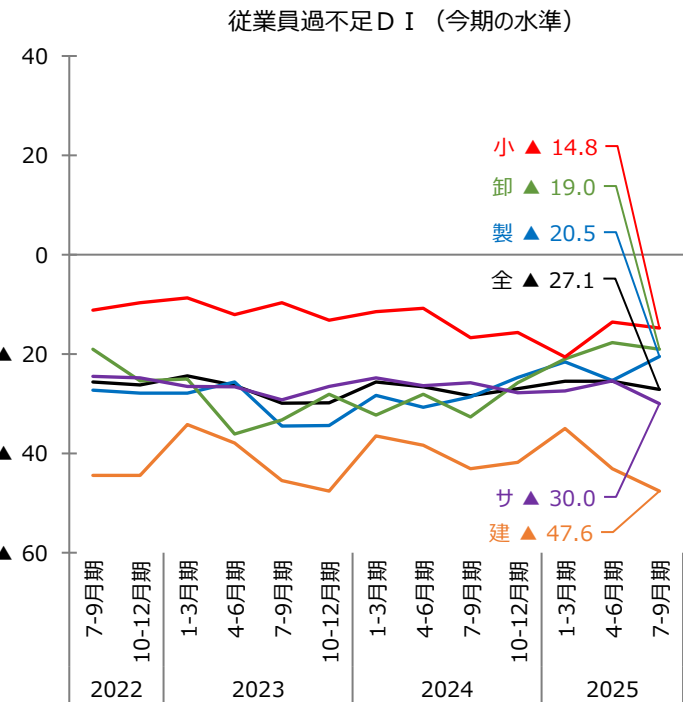
採算DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の10.1と2期連続してやや上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、卸売業で上昇し、小売業は横ばい、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で1.6ポイント減の▲27.1で4期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、建設業、卸売業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現 状	米価の値上がりにより、給食にパン食を求められる割合が増えたことは良い材料だが、小麦、バター等主要仕入れのコスト増や包装資材の高騰等、マイナス面が大きく全体としては業績が悪い。	製造業	パン製造業
	春の受注が好調で通年動く現場があり、その後の受注が選別できたことが業績向上に貢献。来期はこのような状況を見込めない。	建設業	一般土木建築工事業
	水産関係の受注が低下している。暑さの為か、7月は商品の動きが悪い。特に食品原材料部門が悪化。観光客が増えても、ホテル代が高いと言われている。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	生活経費が上昇し、米問題や気候変動も相まって消費マインドはかなり低下していると感じる。必要最小限に出費を控えている。	小売業	鮮魚小売業
	今期は例年と比べて外国人観光客が多く、国内客の数は維持という状況であったため、利用客数はプラスであった。来期は、学校団体の割合が増えるため、客単価が下降する。	サービス業	他に分類されない飲食店
見 通 し	現状大きな変化はないが、取引先からは見通しの厳しさを耳にする事が増えてきた。更なる人件費、原材料の上昇に加え、天候不順による材料の確保難という問題も出てきそうだ。	製造業	すし・弁当・調理パン製造業
	現状は以前からの案件が竣工した為、9月見込の完工高は前期比を上回る結果となったが、民間需要は停滞し、引き合いが減少する中で諸コスト上昇の影響もあり、今後は収益性が落ちる可能性が高い。	建設業	一般土木建築工事業
	協力会社の職人の確保が、高齢化により維持するのが難しくなっている。現状の協力会社は少人数で不利な環境であり、新しい職人を入れることは本当に困難である。弊社として今できることを考えていきたい。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	同業者の高齢化が進み、お店を閉店する方が増えている。それにより顧客が増えているが増えすぎ感があり、忙しすぎる。今後も辞める同業者が増える見込み。	小売業	自転車小売業
	米国関税の影響がどのような形で表れるのか？ A Iを活用する動きがどのようになるのか？ 人手不足、高齢化、時短などの問題をどのようにクリアできるのか、賃上げへの対策も問題。	サービス業	パッケージソフトウェア業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)